



ネット上から検索によって入手した情報／資料の記載内容のチェックポイント第二弾である。今回は、資料に記載されている内容と記載されていない内容のチェックについてから言及したが、今回は、資料の記載日および記載日以降の空白期間をフォローするポイントについて見てみよう。

第二十五話 資料のチェック② 資料の記載日以降をフォローする

みなさんは、資料の記載日を気にしているであろうか。資料を集めて物書きをしている人でも、記載日に注意を払っている人は、少ないのではないだろうか。日本社会の風潮として、軽視しているように感じている。

このように感じるのは、ウェブ上での新聞社の記事である。年月日のうち、月日は書いてあっても、年度が書かれていない記事が多い。少し古い記事になると、この年度を他の資料で確認せざるを得なくなる。

さらに、百科事典の記述である。ウィキペディアを除いて、記載日（更新日）を書いていないものが大半である。記事ごとに記載日は明記し、ウィキペディアのように、常時、内容を更新することが求められる。

記載日に注意すべき理由は、我々の生活を大きく変える大事故や大事件、さらに画期的な製品などが、日常化しているためである。大事件の前後で我々の意識は変わり、世の中の見方が変わってしまう。記載日以降から現在までの空白期間を、フォローしなければならない。

世界経済でみれば、2001年11月に初出し、注目を集めた BRICs の成長、2007年夏に始まった米のサブプライムによる住宅ローン危機、2010年1月に始まるギリシャ経済危機、2011年3月に発生した東北大震災と福島原発の事故などなど。

スポーツの世界も例外ではない。野茂英雄が米メジャーリーグで新人賞を獲得した1995年、柔道のメダル獲得数の最低だった北京オリンピックの2008年8月、なでしこジャパンがW杯で優勝した2011年7月などの出来事を境に、それぞれのス

スポーツに対する日本人のスポーツ観が、大きく変わってしまった。

筆者の IT 分野でいえば、2001 年 11 月に発売された iPod、2003 年の米英によるイラク侵攻によって話題を集めたブログ、2006 年 9 月に一般公開されたフェイスブック、2007 年 1 月に発売されたマイクロソフトの Windows Vista、2011 年 12 月に登場したグーグルマップなどの新製品や新サービスによって、ネットの楽しみ方が大きく変わった。

それぞれの大事件や大きな出来事以前に書かれた記載か、以後に書かれた記載なのかをきちっと把握し、それぞれ資料を読み直す必要がある。そして、記載された日以後に、その記載内容の見え方を、大きく変えるような出来事があったかどうかをチェックする努力が求められる。

さて、記載日に関して、特に注意すべき点は、5 つある。1 つは、継続中の事件や出来事についてフォローすべきケースである。2 つは、大きな制度改革、法律改正、ルール変更がなされ、その影響をフォローすべきケースである。3 つは、画期的な出来事により、我々の常識や期待が大きく変わってしまうケースである。4 つは、既に終了済みの事件や出来事について、新資料の発見や新説が発表されるケースである。5 つは、事件や出来事を取り巻く環境が大きく変わり、社会・経済の構造変革につながるケースである。

まず 1 つ目のケースでは、犯罪や事故などにおいて、事件の発生から容疑者の逮捕、裁判と判決に至る過程で、予想外の展開に発展する場合は、少なくない。例えば、2010 年 3 月に逆転無罪判決が出た足利事件である。この無罪判決を境に、犯罪や事件に関わる DNA 判定に関して、我々の常識は大きく変わってしまった。

2 つ目のケースにおける制度改革や法律改正では、1989 年の一般消費税導入、1994 年の小選挙区比例代表並立制の導入、1996 年から 2001 年にかけての金融自由化（金融ビッグバン）、2009 年の航空自由化（オープンスカイ協定）などの政治・経済の改革や法律改正がある。

このタイプの事件で今夏の注目すべきは、今年 2012 年 6 月に成立した死因究明 2 法である。2007 年に起きた大相撲の力士暴行死事件で、「死因不明社会」といった用語がマスコミを賑わした。この対策として遅ればせながら、今年に入って新法がようやく成立した。これによって死因不明社会が解消されるかどうかは、今後を見守る必要があり、フォローしていくべき事件であるといつてよい。

このほか、スポーツ競技における国際ルールの変更が、選手のメダル獲得や成績に大きく影響している。大きな話題を集めたのが、北京オリンピック（2008 年）での「スピード社の水着使用問題」である。

ちなみに、2009 年 7 月に高速水着の使用は大きく制限されることになったが、今回のロンドン・オリンピックでは陸上選手の高速度ウェアの登場が話題になっている。この高速度ウェアが、選手の大幅な記録更新につながるのかもしれない。ロンドンのオリンピック競技に注目しよう。

3つ目のケースで大きな話題を集めた最近の話題は、2011年7月のW杯におけるなでしこジャパンの優勝である。女子サッカーに対する日本人の見方や期待を大きく変え、女子選手の待遇も大きく変えたイベントであったとあってよい。スペインを破り決勝進出を決めた男子サッカーにも、注目すべきである。

4つ目のケースは、宇宙自然現象、歴史上の出来事ほかにおいて、従来の定説を覆す新証拠の発見や新理論の提出がなされる場合である。新しい観測技術や測定技術の進歩により、21世紀に入り次々と我々の常識が覆されてきている。

例えば、めばしい新説だけでも、「弥生時代の始まりは500年遡る」(2003年)、「冥王星を惑星から準惑星へ降格する」(2006年)、「ギリシャ文明は白い文明ではなく極彩色の文明であった」(2012年7月)などなど、少なくないのである。

NHKスペシャル「知られざる大英博物館 第2集 古代ギリシャ"白い"文明の真実」(2012年7月1日放送)は、ギリシャ文明を代表する大理石の白い建造物や彫刻は、実は極彩色の彩られたものであったと伝えている。大英博物館の調査研究によって明らかにされた。「ギリシャ文明が白い文明であった」という世界の常識が、大きく書き換えられようとしているのである。

5つ目のケースの代表は、2010年12月にチェニジアで始まりアフリカ諸国に波及した政変「アラブの春」や、2011年3月に起きた東日本大震災と福島原発事故であろう。「アラブの春」は、現在進行形の革命であり、新しい政治・経済の仕組みがどうなるのか、今後を見守る必要がある。

東日本大震災と福島原発事故についても、日本だけでなく世界中が、原発事故の関する基本政策の見直しと抜本的な対策をどう進めるのかを、今後の国政選挙などを含めても見極めていく必要がある。

以上みてきたように、資料の記載日以降から現時点までの空白部分については、ポイントになる部分については、フォローしておくことが求められる。

☆☆

WebCR 編集部からのお知らせ

本誌に連載／掲載されている記事に関するご質問、ご意見をお待ちしております。近い将来に予定されているプロジェクトに先立って不安や問題点の確認をなさりたい方、現在進行中のシステムのプロジェクトマネジメントにおけるトラブル関連など、何でも結構ですので、下記メールアドレスまでお寄せ下さい。

cr-info@jmsi.co.jp

☆☆